おうちで物語体験を！

どんないいことが？

＊本を通じて楽しい時間を共有することで、大人にとっても子どもにとっても癒しの時間となります。忙しさの中にも「気持ちのゆとり」が生まれます。
＊家族で同じ物語を共有することで、共通の話題や笑いが生まれ、コミュニケーションを深めることができます。
＊お子さんの反応から成長を感じることができます。
＊お子さんにとっては、絵本から読み物への橋渡しとなります。読んでもらった本を自分で読もうとしたり、同じシリーズの本や同じ作者の作品を読もうとしたりするようになります。
＊物語の構造を知らず知らずのうちに感じとり、長編作品の楽しさを知ることができます。
＊筋を追うだけの速読ではなく、じっくりお話を聞くことで想像力をはたらかせることができます。

どんな本を？どんなふうに？

＊「読まなければならない」ではなく、読み手自身が「続きが読みたい」「楽しい」と思える本が１番です。
＊まずは、絵本の読み聞かせから始め、お話を読むこと、聞くことに慣れてきたら、2〜3 日で読み切れる幼年童話の読み聞かせも。そして、少しずつ、長いお話にチャレンジしていくとよいでしょう。
＊挿絵は、一緒に見て楽しみましょう。
＊選書に迷ったら、図書館で相談してもいいですね。

家読（うちどく）とは

「家読（うちどく）」は、「家庭読書」の略語で「家族ふれあい読書」を意味し、家族みんなで読書をすることで家族のコミュニケーションを深めることを目的にした読書活動です。

家読（うちどく）いろいろ

○家族で同じ本を読む
○家読（うちどく）の日、時間を決めてみんなで読む
○読んだ本について話をする
○一緒に図書館へ行く
○読んだ本の記録を残す　　　など

家族で本を楽しんでみてください。

お子さんと一緒に こんな家読（うちどく）はいかが？

絵本の読み聞かせをたっぷり経験したその後は、幼年童話や児童文学を毎日少しずつ読みがたり、一緒にお話の世界を楽しんでみてください。

子どもは、お話の中に出てくるすべての言葉を聞き、想像力をはたらかせながら、からだ全体で"物語体験"を重ねていきます。

この体験は、おうちの人と本を通して共有した「時間や空間や気持ち」の記憶とともに、お子さんの「生きる力」につながります。

発行：三重県教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
TEL 059-224-3322　FAX 059-224-3023
E-mail shabun@pref.mie.lg.jp

明日が きっと
まちどおしくなる！

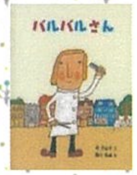
家読（うちどく）のす・す・め

１日 10 分
物語を
毎日少しずつ読みがたり、
「つづきは明日ね…」といって
本を閉じる…
そんなふうに本の世界を
楽しみませんか。

三重県教育委員会

おうちで“物語体験”を楽しむための

ブックリスト



『バルバルさん』
乾 栄里子 文／西村 敏雄 絵 （福音館書店）32p

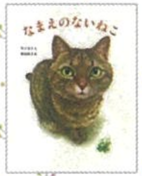
バルバルさんは、森の床屋さん。ある日、たてがみがかっこいいライオンさんが来ました。ライオンさんがウトウト寝ている間に、チョキチョキチョキ…バルバルさんは切りすぎてしまい、ライオンさんは大変身。

『あなのはなし』
ﾐﾗﾝ・ﾏﾗﾘｰｸ 作／二見 正直 絵／間崎 ルリ子 訳（偕成社）27p

くつしたにあいた“あな”は、ひとり旅に出ることにしました。次々に仲間と出会い旅を続ける“あな”、とうとうオオカミと遭遇し、みんな食べられるのですが、さて…。絵本に本物の穴があいていてびっくり です。

『11 ぴきのねことあほうどり』
馬場 のぼる 作 （こぐま社）40p

11 ぴきのねこはコロッケの店をはじめました。毎日売れ残りのコロッケを食べているうちに見るのもいやになりました。「とりのまるやきがたべたいねえ」と話していると「こんばんは」とあほうどりが。ねこの目がかがやきました。



『なまえのないねこ』
竹下 文子 文／町田 尚子 絵 （小峰書店）32p

どのページにもねこ、ねこ、ねこ。思わず手を伸ばしてさわりたくなる、ねこ目線の絵本。「なまえのないねこ」のほしかったものは？ほっとする最後に、何度も読み返したくなる。「見返し」も楽しめる。

『トラのじゅうたんになりたかったトラ』
ｼﾞｪﾗﾙﾄﾞ・ﾛｰｽﾞ 文・絵／ふしみ みさを 訳 （岩波書店）32p

やせこけておなかをすかせたトラはある時、王さまの“せんたくひも”にぶらさがることを思いつきました。そう、トラの毛がわに見せかけて、宮殿に住みこもう！というわけです。さあ、この作戦、うまくいくでしょうか？乞うご期待！

『チムとゆうかんなせんちょうさん』
ｴﾄﾞﾜｰﾄﾞ・ｱｰﾃﾞｨｿﾞｰﾆ 作／せた ていじ 訳（福音館書店）47p

“ふなのり”にあこがれているチム。なんとかうまく乗りこめたものの、ある日、激しい風が船を襲い、船長と二人、船と運命をともにすることに。自分と重ね合わせてドキドキの子どもたち、大冒険のハッピーエンドに拍手喝采です！

『としょかんライオン』ﾐｼｪﾙ・ﾇｰﾄﾞｾﾝ 作／
ｹﾋﾞﾝ・ﾎｰｸｽ 絵／福本 友美子 訳 （岩崎書店）ページ付なし

あるひ、としょかんにやってきたライオン。さいしょは、みんなびっくりしたけれど、だんだんなかよしになっていきます。ところがあるひ…。あなたもきっとライオンとともだちになれる１冊です。

まずは 絵本の読み聞かせを たっぷり楽しんで！

『オタマジャクシのうんどうかい』
阿部 夏丸 作／村上 康成 絵 （講談社）80p

しっぽが短くなってしまったオタマジャクシのたまは速く泳げない。みんなは運動会で「かけっこのスタート地点をかえる」というハンデをたまに与えようとするが、たまはうれしくない。

『あしたもオカピ』
斉藤 倫 作／fancomi 絵 （偕成社）79p

よつば月の夜には、動物たちの願いが何でもかなうという。不思議な月が出た夜、不思議な動物オカピが、動物園中の鍵をあけて歩き出す。オカピが聞いた動物たちの願いごととは？そして、最後に、オカピが願うのは。

『まほうのじどうはんばいき』
やまだ ともこ 作／いとう みき 絵 （金の星社）94p

学校の帰り道「あなたのみかた」と書いた自動販売機を見つけた。ボタンを押すと欲しかったカブトムシが出てきた。ところがある日、自動販売機は突然なくなっていた。魔法の自動販売機に出会った男の子の成長を描く。

『あまのじゃくにかんぱい！』
宮川 ひろ 作／小泉 るみ子 絵 （童心社）96p

えりと雄也は、あまのじゃくなおばあちゃんの「いじわる教室」に、参加することに。草むしりに始まり、おかまでのご飯炊きや五右衛門風呂のそうじに水くみ、文句を言いながらも一つ一つ達成していく子どもたち。

『ロボット・カミイ』ふるた たるひ 作／
ほりうち せいいち 絵 （福音館書店）92p

たけしとようこが、段ボール箱でロボットを作ります。紙で作ったロボットだから、名前はカミイ。いたずらでわがままで泣き虫ですが力持ち。楽しみにしていた幼稚園に入って大騒ぎを起こします。

『にわとり城』
松野 正子 作／大社 玲子 絵 （こぐま社）72p

たった一羽のにわとりと旅立った心優しい「のろまなむすこ」。真っ暗な森での「まもの」との対決。昔話を思わせる骨太の筋立て。大好きなハラハラドキドキ「なぞなぞ」入りストーリー。幸せなラストページをぜひ家族で味わって！

『スギナ屋敷のオバケさん オバケ屋敷にお引っ越し』
富安 陽子 作／たしろ ちさと 絵（ひさかたチャイルド）118p

オバケさんは料理研究家。オバケンイチロウという立派な本名があるのですが、縮めてオバケさん。さてある日、引っ越しをしたオバケさん。そのスギナ屋敷には不思議な秘密が隠れているそうで、あれあれ？オバケさん、大丈夫かな？

つづいて 数日から１週間で読み切れる 幼年童話 を！

三重県子ども読書活動推進会議委員 推薦

『ネコのタクシー』
南部 和也 作／さとう あや 絵 （福音館書店）88p

のらネコのトムはタクシー運転手ランスさんの家のネコになりました。ある日ランスさんが骨折をして仕事に行けなくなったので、トムは小さなネコ用のタクシーを作ってもらい、仕事をはじめました。運賃１ポンドで町の大評判！

『ぼくはアフリカにすむキリンといいます』
岩佐 めぐみ 作／高畠 純 絵 （偕成社）101p

友だちがほしいと思っていたキリンは、ペリカンが郵便配達をはじめたことを知り、手紙を書くことを思いつきます。「地平線のむこうで最初にあった動物にわたしてほしい」とペリカンにたのんだら…。

『しろくまだって』
斉藤 洋 作／高畠 純 絵 （小峰書店）127p

マルクとカールは、しろくまの兄弟。人間の落としていったラジオで言葉を覚えた二人は、町へ出て行き、“しろくまじるしの宅配便”で大当たり。好奇心にあふれた二人の生き方をユーモアたっぷりに描いた楽しい物語。

『ふしぎな木の実の料理法』
岡田 淳 作 （理論社）189p

雪の日に届いた小包。中身は「ポアポア」と雪に濡れて読めなくなった手紙です。受け取ったスキッパーは「こそあどの森」のみんなに相談。ポアポアってなんの木の実？料理法は？ドキドキの謎解きが解決したラストは幸せいっぱい！

『大どろぼうホッツェンプロッツ』
ｵﾄﾌﾘｰﾄ・ﾌﾟﾛｲｽﾗｰ 作／中村 浩三 訳 （偕成社）184p

大どろぼうホッツェンプロッツは大悪党。カスパールとゼッペルは果敢に挑みますが、あえなく失敗。そこに大魔法使いまで登場し、二人は大ピンチ！巧みなストーリー展開で手に汗にぎる攻防が。そのハラハラドキドキは大団円に！

『ルドルフとイッパイアッテナ』
斉藤 洋 作／杉浦 範茂 絵 （講談社）273p

知らない町に来てしまった黒ねこルドルフ、太い声のトラねこ「イッパイアッテナ」に出会う。「おれの名前は、いっぱいあってな。」という言葉に早合点したルドルフが命名したようなもの。ここから“二人”の熱い友情物語が始まる！

『長くつ下のピッピ』ｱｽﾄﾘｯﾄﾞ・ﾘﾝﾄﾞｸﾞﾚｰﾝ 作／
ｲﾝｸﾞﾘｯﾄﾞ・ｳﾞｧﾝ・ﾆｲﾏﾝ 絵／菱木 晃子 訳 （岩波書店）198p

世界一強い、赤毛とそばかすの女の子ピッピ。お母さんもお父さんもいないけど、隣に住むトミーとアニカ、サルのニルソン氏と自由に勇気ある冒険を繰り広げます。ピッピの前向きな姿にいつの間にか元気が湧いてきます。

『野生のロボット』
ﾋﾟｰﾀｰ・ﾌﾞﾗｳﾝ 作・絵／前沢 明枝 訳 （福音館書店）304p

無人島に漂着したロボットのロズは、生き抜くため、野生動物との共存を試みる。動物の言葉を学習し、雁の子を育て、島での生活に馴染んでいく。そんなある日、ロズを回収するためにやってきたロボットと戦うことに…。

そして 10 日から1~2カ月かけて読破する 児童文学に挑戦！